



年 頭 の 辞

会 長 三 島 徳 七

新らしく昭和 38 年を迎えるにあたり、まずもつて会員各位のご多幸とご繁栄を祈るとともに、わが鉄鋼業界および鉄鋼学界発展のため一層のご努力ご研鑽あらんことを切望いたします。

私は、昨年秋はからずもイタリー冶金協会から、ルイジ・ロサーナ賞を受け、そのついでを利用して、9年振りにスイス、西独およびベルギーをまわり、西欧3カ国における鉄鋼、金属学界の実情、とくにその研究状況、産学協同の組織、機構ならびにその成果などを見聞する機会を得ました。

視察の概要につきましては、旧臘 12 月 4 日東京商工会議所講堂における特別講演会で報告しましたが、私の心に深く感じたことを端的に申しますと、まず第一に EEC（欧州経済共同体）加盟諸国の見事な共同体制についてであります。EEC加盟の西欧6カ国の間では、鉄鋼業1つについて見ても、堅実な長期計画の下に各国が無駄のない設備拡充と生産を行なっており、一国内の企業間の過当競争はもちろん、国と国との間にもよく協調が保たれ、そのために斯業の異常な成長ぶりを示しております。その他の産業におきましても同様の状態でありまして、EEC加盟諸国の経済、貿易の発展はまことに目覚ましいものがあり、今やアメリカ、ソ連と肩を並べて世界の第3勢力にまで伸び上つてきたことは否定できません。

とくにこれら諸国においては、広い視野から、科学技術の共同研究の必要を痛感し、学界、業界ともに手をたずさえて全体のために各種の重要研究を推進しつつあることに感心した次第であります。かの EURATOM（欧州原子力共同体）における西欧6カ国の原子力共同研究開発の努力体制、CNRM（鉄鋼研究センター）が中心となつたベネルックス3カ国の産学協同体制などの実情を視察して、西欧諸国が互によく協調して、全体の幸福繁栄と経済の安定を目指して、鋭意努力している態度には、深く心を打たれるものがありました。

これに引きかえ、わが国の実状をかえりみると、各方面とも一人よがりの競争意識が強く、企業全体の調和統制をおろそかにした結果、企業間における設備投資の過当競争に陥り、ついに最近の業界不況を招くに至つたのではないかとおもわれ、甚だ遺憾に思うと同時にわれながら強く反省させられるものがありました。また、わが国の研究機関の現況を見ますに、官民幾多の研究所があつて、その数は敢て少なしとはしませんが、全体的に見ますれば、西欧諸国に比し研究費も少なく、研究員の数も少ないのでありますから、この際産学協同ならびに企業相互の協調を図り、共同の場をつくつて重要課題を協議し、その研究解決に最も有効な手段を講ぜねばならぬと痛感する次第であります。そのためには西欧諸国の組織と制度を参考として、わが国に最も適切有効な機構を設けねばならぬと考えます。ここにおいてわが日本鉄鋼協会は学界と業界との間に立つて国全体の立場から協力調和の体制を推進し、わが国鉄鋼業の発展に貢献せねばならぬことを痛感する次第であります。

本協会は、時局の要請に鑑みかねてよりその拡大強化の計画を進めてきましたが、昨年4月の総会において拡大実行案を決定し、その後着々実施に努めておりますが、既に進行中の主なるものを挙げれば次の通りであります。

1) クリープ試験技術研究組合の育成; 協会が中心となり, 関係 21 社間を斡旋して, 新たにクリープ試験技術研究組合を設立し, 共同試験研究を行うこととなり, 政府の補助金をも受けて着々その事業を進めています.

2) ラテライトの共同研究; ラテライトの研究は従来各方面で進められていたが, その間に殆んど連絡交流がなかつたので, 昨年鉄鋼技術共同研究会内にラテライト研究部会を設け, 関係会社と研究機関を糾合して強く共同研究を促進している.

3) 共同研究会の拡充; 従来通産省重工業局, 日本鉄鋼連盟および本協会の 3 者共同によつて運営してきた鉄鋼技術共同研究会は, 製鉄, 製鋼, 特殊鋼, 新技術開発など 11 の部会に分れて, それぞれ適切な研究題目を採り上げ, その解決に活潑な活動を示してきたが, 昨秋これをそのまま当協会に移行し, さらにその研究部門を拡大充実するとともに, 一層強力にその活動を推進することにいたしました.

4) 英国鉄鋼視察団の来訪; 当協会の招請に基づき, 来る 3 月 17 日より約 20 日間英国鉄鋼協会を代表する学界および業界の主脳 15 名より成る視察団が来訪することに決定したが, これにより日英両国間の親善と技術交流の端緒が開かれ, さらに先進諸外国との技術交流を行うきっかけとなることを期待しています.

なお, そのほかにも着々新事業の準備を進めつつありますが, 昨年 11 月から田畑新太郎氏が新たに専務理事に就任され, 鋭意事業の推進に当ることとなりましたので, 当協会今後の事業活動は一層活潑に行われるものと信じます.

さりながら, 現下の情勢において, 当協会の拡大強化をはかるにはなお幾多の困難が横たわっており予定された事業の推進も容易ならぬものがあると思われませんが, 今後わが国の鉄鋼業が世界的発展を遂げるためには, 万難を排して当協会に課せられた責任を遂行することが絶対必要であると思われまので, 会員各位の一層のご協力とご支援とを強く要望する次第であります.

思うに, 現下のわが国鉄鋼業の不況は, 一面から見れば神から与えられた試練とも考えられるのでありまして, 鉄鋼業界がよくこの試練に耐え, 短期間にこの共境をのり超えてこそ, つぎの目ざましい発展と幸福が到来するものと確信致します. それがためには, 学界業界ともに一体となり, 協調の精神をもつて西欧諸国の共同体制をお手本に, 諺にいう「禍を転じて福となす」を是非実現させたいものであります.

このように考えてみますと, この昭和 38 年はわが鉄鋼界にとつては正に苦難の年であり, また試練の年であるといはざるを得ません.

私は協会の役員各位とともに所期の目的達成に向つて鋭意努力を続ける決心でありますから, 会員各位におかれても以上の趣旨を諒とせられ, 倍旧のご支援とご協力を賜わりますよう切望して年頭の言葉にかえます.